

四分五裂の民進党と相まった政界大再編

「小池劇場」いよいよ国政へ？

政治ジャーナリスト 鈴木哲夫



小池氏は「本気モード」に突入か（東京都）

全面対決へ舵切った自民党

東京都議会議員選挙が行なわれる4年に1度。毎回、この大会の活気や動員は凄まじいものがある。

自民党東京都連の総決起大会が4月11日に都内で開かれ、毎回の規模以上の5000人が集まった。

今年の最大の関心は、この大会で自民党がどんな対決姿勢を見せるか。相手は、もちろん圧倒的に高い支持

をキープしている、小池百合子東京都知事だ。

実は3月に入って、私は自民党東京都連幹部らとじっくり話す機会を得た。官邸にも党本部にも深く通じるこの幹部らに、今後小池氏とは都議選に向けてどんな距離感で行くのかをぶつけた。

それまで、官邸や自民党本部は、余りにも人気の高い小池氏とは正面衝突は避けて、押しやり引いたり、いわば「抱きつき作戦」で対立軸をなくす戦術だったのだが、私の問いかけにこの幹部は、「小池は……」と言った後、顔の前で両手の人差し指で「×（バツ）」を作った。

その意味は……。

「小池はノー。官邸は戦えという方針に変わった。都議会でも次第に厳しい姿勢に変えて行く。4月の決起大会の頃には全面対決の姿勢になる」

そのとおり、大会は「全面戦争モード」（自民党東京選出ベテラン議員）に染まった。

安倍首相も「急に誕生した政党にとっても都政を支える力はありません」と挨拶した。

実は、首相は挨拶の中で小池氏に對して多少のリップサービスをする場面もあったが、何と会場内はシーンと静まり返り、「今さら何を言ってるんだ」の空気。

ある都議候補は「まあ好きに言えればいいじゃない」と、何と安倍氏に對して冷たく言い放った。

さらに、会場内では、豊洲新市場移転問題になかなか結論を出さない小池氏を批判する映像まで制作し、巨大スクリーンに映し出された。

しかし、官邸はなぜ「×（バツ）」を出したのだろうか。

「小池知事の勢いが東京を起点に全国に広まり、総選挙でも小池氏が新党を結成する可能性も出て来ている。また、このまま戦わずして追い込まれて行くようなことになると、国政選挙でも東京で自民党が惨敗したりすることだってある。もはや国政レベルで小池氏についてのリスクを



小池氏へのリップサービスを続ける安倍氏だが（自民党）

考え始めたということだ。だから官邸は主戦論に変わった」（都議会自民党幹部）

さらに、官邸や自民党本部の一部が極秘で行なった、都議選に関する世論調査の結果が「惨敗ではなく健闘」（自民党本部幹部）していたのだ。

年明けに、メディアなどが行なった世論調査では、自民党は現有の57から30を切つて、最悪25議席などというデータもあったが、今回の極秘調査では、40議席以上はキープできそうな勢いだったという。

つまり、何も小池氏に「抱きつく」必要はない、と主戦論を後押ししたという。

実は自民党の決起大会には、小池氏も党籍がまだあるということで招待されていたが欠席した。

小池氏は記者団に「ご招待頂いたことはありがたいが、一方で都連の会は大変ハードルは高いのかな」と語つたが、官邸や自民党の思惑に対して、明らかに欠席の意思を示しての宣戦布告と言つていい。

「国政研究会」の立ち上げ

小池氏も「自民党のいわば挑発で本気になった」（小池氏周辺）という。

「国政研究会」——。小池氏が3月31日、ついに「国政」の名のつく組織を立ち上げた。

これは、すでに都議会で小池氏の与党として発足し、この夏の都議選にも多くが出馬する「都民ファーストの会」の中に作られた勉強会のような位置づけ。4月中旬に第1回目の会合を開く予定だ。

参加メンバーは、同会に所属する都議や夏の都議選候補達で、今後はメンバーを随時増やしていくと言う。都政と密接に関わる国政の特区や、

経済政策、金融政策などをテーマに研究・議論して行くことになっている。

当の小池氏は、3月10日の定例記者会見でいよいよ国政での小池新党の布石か、という質問に対して「その期待に応えられるものではない」と否定しているが、都議会議員などの間では、「官邸や自民党本部が今後は総がかりで国政の次元での潰しに来ると察知して、こちらの態勢をとつた。明らかに小池知事が小池新党を見据えたものだ。候補者の育成などいよいよ本格的に動き出す」（ベテラン都議）と見る向きが多い。

一方、永田町でも、小池氏に関心を寄せる様々な反応や動きがあるといる。

「その1つが、旧みんなの党のバイブです」と話すのは、旧みんなの党の東京の地方議員だ。

「都民ファーストの会の幹事長の音喜多駿氏はみんなの党出身。また、小池塾や都議候補の選出の過程で名前が挙がった者など、みんなの党関係者は多い。そうした中で、元代表で日本維新の会の参議院議員の渡辺喜美さんなどは、小池知事と行動を共にしているメンバー達の相談相手などになっているし、彼らの勉強会など

にも参加している。小池知事との方向性を測っている」

渡辺氏は、昨夏の参院選に維新から出馬し当選を果たしたが、次期総選挙で衆院への鞍替えを目指している他、維新の松井一郎代表（大阪府知事）とは、みんなと維新の合流問題以来そりは合わない。

「衆院選で維新は関東では力がない。ならば、渡辺さんが現職の中で無所属議員など5人集めて、小池新党を先行発進させるんじゃないかという話が出て来ている」

渡辺氏本人は、小池新党について一切公言していないが、今後2人の接触は要注意である。

また、都政関係者が名前を挙げる現職国会議員が、無所属の松沢成



小池新党設立のカギ握る？渡辺喜美氏



ちぐはぐ感が拭えない蓮舫執行部（民進党）

文参議院議員。

「オリンピックのゴルフ会場のことで小池知事の元を訪れたのですが、2回目は口実ではないか。五輪関係者も誰もおらず2人で会っていた。松沢さんは地方政治改革にも熱心。小池さんと政策面でのウマは合うんじゃないか」（同）

さらに、私の独自取材では、北部九州の2つの県、東海1県、東北2県の元衆参国会議員や県議会議員などが、小池氏との接触をあらゆるチャネルで探り始めている。九州地区の元国会議員は「小池新党を想定して、独自の勉強会を始めている」と話す。

また、国政を意識した自民党対策は、実は都議選の戦術にも見え始め

ている。

都民ファーストの会の候補の1人は「その秘策の1つが民進党への対応」と言っている解説する。

「当初は、選挙の全面協力は公明党のみ。旧民主党・民進党系の東京改革議員団については、選挙区ごとの事情や個人的な関係で考えると冷たかったのですが、ここへ来て、2人区などで民進党を離党して無所属になれば、都民ファーストの会・民進党・連合の三者で推薦しようという動きに変わって来たんです。つまり、政変である民進党やその支持団体の連合などとも、よい関係を構築しようというところで、明らかに国政の舞台での決戦の際に、民進党との連携に道を残しておくためでしょう」

求心力低下の蓮舫執行部

なるほど、小池氏がよいよ国政も見据えるようになり、その連携相手の1つとして視野に入る民進党だが、ここへ来てどうも心もとない状況だ。

蓮舫執行部の求心力は弱まる一方だ。「同時期に（党内の）ちぐはぐ感を見せたことは、私達を支援している方に大変申し訳ない」

4月12日の記者会見で、民進党の蓮舫代表はそう語る一方、「個人の判断だ」と突き放す言い方で、悔しさにもじまされた。

4月10日には長島昭久元防衛副大臣が離党、13日には細野豪志代表代行が代行職を辞任。民進党の顔が相次いで蓮舫執行部に見切りを付けた。長島氏の離党の理由は「党内議論もないままの共産党との選挙協力」。細野氏は、月刊誌で憲法改正私案を発表し教育無償化を唱えたが、蓮舫執行部が改憲は不要と批判。これに対して細野氏は「憲法は代表選で、蓮舫氏を応援する条件だった。筋として執行部にいられない」というのが代行辞任の理由だ。

ドミノのように、この後も執行部への不満を持つ議員らの離反が続き、民進党は崩壊の道を辿るのか。

ただ、取材を進めると、今回の2人の行動の背景には、単に蓮舫執行部への不満というだけではなく、それぞれ個別の事情もあることが浮かび上がってきた。

旧民主党の元議員は、長島さんの離党は既定路線だったと話す。

2003年に初当選した長島氏だが、政治理念や政策は保守。安全保障

政策などは、自民党と比較してもよりタカ派とも言われる。

かつて石原慎太郎東京都知事が新党を作った際にも「長島さんは当然新党メンバーとしてカウントしている」（石原氏側近）とされていた。「そもそも長島さんは自民党など保守政党から出る枠がなく民主党から出たから、石原新党に参加するだろうと皆見ていた」（前出元議員）

ところが、石原新党は実現せず、そのうち民主党が政権交代した。長島氏の支援者が言う。

「政権内では、保守現実路線を取れる貴重な存在として官僚からも信頼されたが、民主党が政権から転がり落ち、後はいつ民主党から離れるかタイミングをずっと見てきたと思います」

実は、長島氏については、裏側で自民党の影も見え隠れする。自民党幹部がこんな話を明かした。

「ごく限られた自民党幹部らによつて、長島さんへは自民党への移籍を働きかけて来た。2014年の衆院選で、長島さんが小選挙区で勝つていれば次の選挙は党を変わるの、自民党公認を仕掛けようと思っていた。」

比例だからそれができなくなったが、今後、無所属を経て自民党入りを引き続き進める」

長島氏は、日本維新の会や民進党の保守系議員らと早速「外交・安全保障戦略を考える会」を立ち上げ会長に就く。小池氏との連携も示唆しているが、前出自民党幹部は「保守勢力を結集して自分の居場所を固めるでしょうが、いずれは自民党へという流れにしたい」と話す。

もちろん長島氏本人は「自民党との関係」は一切口にしていない。

一方の細野氏についても、選挙区でもある静岡の個別の背景がありそう。こちらは県知事選、そしてここにも何と自民党の影が見えて来る。この件に対し、静岡の民進党関係



代表代行から降りた細野豪志氏（民進党）

者が明かにした。

「任期満了の知事選が6月に行なわれるが、現職の川勝平太知事に2連敗している自民党は、どんな手を使っても勝とうと考え出したのが、民進党議員を抱き込んで候補に仕立て上げ、オール与党で行こうという作戦だ。民進党を川勝さんから完全に引き離し、新しい県政の流れを作ろうという口実。実際、自民党は民進党静岡の榛葉賀津也参議院議員、渡辺周衆議院議員、そして細野さんにアプローチしたと見られている。こうした中で、国政で活路を見出せない細野さんが、県知事も選枝と、代行を辞任して備えたのではないかという見方が、静岡の民進党の中では広まっている」



遂に離党した長島昭久氏（民進党）

細野氏はその後、川勝氏が出馬表明しこれを支持すると明言。自民党の動きについては表面化していない。

ただ、旧民主党のエースとされ、未来の首相候補に名前も挙がりながら、「政局カンが今一つ」（民進党ベテラン）など突き抜けることができていない。

「県知事の噂が広まったのも、そんな背景があるからでしょう。しかし、その県知事がなくなるとすれば、今後党内で起こり得る、蓮舫おろし、など政局でどう振る舞うか、執行部に三下り半を突き付けた以上何らかの動きを見せる最後の勝負時とも言える」（同ベテラン）。

残された行動は2つだけ

こうして見ると、長島・細野両氏とも、個人的な事情による民進党離れという側面があると言える。

ただ、それが易々と実行に移されたのは、やはり蓮舫執行部の求心力がないからだろう。

「スタート時から、お友達人事で野田佳彦幹事長にしたり、連合や共産党、他の野党との距離感も定まらなかつたりなど、総てが中途半端。党内の保守系も社民系も中間派も、

皆に不満が残るような党運営だから、必然的に求心力は落ちる」（民進党4回生議員）

都議選は地方選挙だが、蓮舫氏のお膝元である以上、壊滅的な敗北は「蓮舫責任論」に発展する可能性は大きい。

「誰が言い出すかだが、前原誠司元代表、野党再々編論者の松野頼久氏のグループ、連合代表の党運営に失望している旧社会党系の赤松広隆氏のグループなどが考えられる。

この3者は、連絡を取り合っていると考え、連携して蓮舫おろし、代表選、自由党や社民党との再々編という方向性を出すだろう。その時、党内の保守系は受け入れるのか、飛び出すのか……。いずれにしても民進党最大の分かれ道が来ますね」（民進党参議院議員）

前出4回生は蓮舫氏に残された行動は2つと断言した。

「野党再々編に舵を切るか、執行部を総入れ替えて、例えば女性を前面に出した党など、新しい党に変身させるか」

小池知事の国政進出、民進党の解党的出直しの可能性……。政界再編の足音も聞こえてきそうだ。